

10月の衛研検査情報

～トピックス～

平成25年度 医動物・種類同定検査のまとめ（7～9月）

医動物担当では、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。

主な結果 7月から9月の種類同定検査件数は、9件でした。内訳は昆虫類4件（コウチュウ目1件、ハチ目3件）、その他の節足動物5件（クモ目2件、ダニ目2件、ムカデ綱1件）でした。

残留農薬検査（その1）

食品専門監視班より8月に搬入された、なす(5検体)、日本なし(3検体)及びぶどう(2検体)、9月に搬入された、きゅうり(1検体)、こまつな(4検体)、さつまいも(3検体)及びなす(5検体)の計23検体について検査を行いました。

主な結果 こまつな3検体、日本なし3検体及びぶどう2検体から計12項目の農薬が検出されました。ただし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。

魚介類中の動物用医薬品検査結果（その1）

8月に食品専門監視班が収去した、市内に流通する、うなぎ4件、銀鮭1件、サーモントラウト1件、ぶり1件、あゆ1件及びえび2件について、抗生物質のテトラサイクリン系(3項目)及びクロラムフェニコール、並びに合成抗菌剤のニトロフラン類(3項目)及びエンロフロキサシン等(28項目)について計35項目の検査を行いました。また、うなぎについては合成抗菌剤のマラカイトグリーン類(2項目)についても検査を行いました。

主な結果 すべて不検出でした。なお、検出限界については本編を御覧ください。

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページは、感染症情報や保健情報、薬事情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。



主な結果 平成25年8月は、セレウス菌による食中毒、手足口病、クロストリジウム-ディフィシル感染症に関するページのアクセスが多くみられ、総件数は180,863件でした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/>



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査等の結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。